

◆執筆者紹介（執筆順、※印は編者）

※出原 政雄（いずはら まさお）同志社大学法学部教授 「はしがき」第2章「あとがき」担当

主要業績

『自由民権期の政治思想——人権・地方自治・平和』（法律文化社、一九九五年）

『総批判、改憲論』（法律文化社、二〇〇五年、共編）

『平和思想の暗転——十五年戦争期の安部磯雄』（同志社法学）三二二号、二〇〇七年）

読者へのメッセージ

今は近現代日本の平和思想史の研究に取り組んでいます。外国での留学・滞在は若い時にすべきということを感じながら、平和や愛国心の問題を中国の側からみつめています。

長谷川 一年（はせがわ かずとし）同志社大学法学部助教 第1章担当

主要業績

『近代フランスのナショナル・アイデンティティをめぐって——ミシュレ、ゴビノー、ルナン』城達也、宋安鍾編『アイデンティティと共同性の再構築』（世界思想社、二〇〇五年）

『多文化教育——統合と多様性の間で』シテイズンシップ研究会編『シテイズンシップの教育学』（晃洋書房、二〇〇六年）

『多文化主義——レイブハルト』『多元社会のデモクラシー』キムリツカ『多文化時代の市民権』岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学——古典・名著への誘い』（ミネルヴァ書房、二〇〇八年）

読者へのメッセージ

従来の右翼／左翼といった区別は新自由主義の台頭とともに無効になった。この現実はどう

向き合うか、一人ひとりに考えてほしい。

岡林

仲夫（おかはやし のぶお）同志社大学法学部嘱託講師 第3章担当

主要業績

『万延遣米使節におけるアメリカ体験の諸相——文化接触と対応の構造（1）——』（3）『同志社法学』（一九七・一九九・二二〇号、一九八六・八七・八九年）

『ある明治社会主義者の肖像——山根吾一覚書』（不二出版、二〇〇〇年）

『彷徨の竹内余所次郎』『初期社会主義研究』（第一六号、二〇〇三年）

読者へのメッセージ

これまで私は何人かの個人の具体的な行動を通して移民や渡米を論じてきたが、今回の一文はそれらの総論的骨格をなすものである。

宮崎

晶行（みやざき まさゆき）同志社大学法学部嘱託講師 第4章担当

主要業績

『日本のデモクラシー』梅津實、富沢克編著『エッセンシャル政治学』（成文堂、二〇〇〇年）

『民友社の平民主義政治論——叢書『政治一斑』を中心に』西田毅ほか編『民友社とその時代——思想・文学・ジャーナリズム集団の軌跡』（ミネルヴァ書房、二〇〇三年）

『条約改正交渉中止前後における同志社大学設立運動、一八八九—一八九〇』『同志社談叢』（第二五・二六号、二〇〇五・二〇〇六年）

読者へのメッセージ

政治を遠い存在と考えるとつばを向いたり、ワイドショーの興味から一喜一憂するのはなく、歴史を学んでほんの少し賢くなってもいい。

田中

和男(たなか かずお) 龍谷大学経済学部非常勤講師 第5章担当  
主要業績

『近代日本の福祉実践と国民統合——留岡幸助と石井十次の思想と行動』(法律文化社、二〇〇〇年)  
『日本社会福祉の歴史 付・史料——制度・実践・思想』(ミネルヴァ書房、二〇〇三年、共編著)  
『大原社会問題研究所の設立と米田庄太郎』『同志社法学』(三二二号、二〇〇七年)  
読者へのメッセージ

政治と福祉の間に生きた社会事業家の思想と行動に関心があります。趣味はクラシックの落語と音楽。中島みゆきの歌の題名を節のタイトルに使った論文もあります。

竹本

知行(たけもと ともゆき) 同志社大学法学部嘱託講師 第6章担当  
主要業績

『ナポレオン戦争』(信山社、二〇〇三年、共訳)(原著: David Geoffrey Chandler. *The Campaigns of Napoleon*, 1973)  
『大村益次郎の建軍構想——「一新之名義」と仏式兵制との関連を中心に』『軍事史学』(第四二巻第一号、二〇〇六年)  
『Patriotic Recession: Kyoto Responds to War』, John W. Steinberg, ed., *The Russo-Japanese War in Global Perspective: World War Zero*, Volume 2, Amsterdam: Brill Academic Publishers, 2007

読者へのメッセージ

国防という任務を国家機能のなかでいかに位置づけていくべきか。日本の政軍関係の歴史は、それを考える素材を我々に提供している。

馬原

潤二(まはら じゅんじ) 同志社大学法学部嘱託講師 第7章担当  
主要業績

『エルンスト・カッシーラーと『啓蒙』の行方——『シンボル形式』の哲学から『シンボル形式』の政治へ

(1)(2・完)『同志社法学』(第二七四・二七五号、二〇〇〇・二〇〇一年)

『近代・啓蒙・理性——ホルクハイマー、アドルノ』『啓蒙の弁証法』岡崎晴輝、木村俊道編『はじめて学ぶ政治学——古典・名著への誘い』(ミネルヴァ書房、二〇〇八年)

『ドイツ国民』をめぐる政治思想——『秩序』意識の形成とその問題点』『同志社大学ヒューマン・セキユリティ研究センター年報』(第五号、二〇〇八年)

読者へのメッセージ

歴史を知ること、自分を知り、人間を知り、将来を知ることには直結している。本稿からその重要性の一端を汲み取ってもらえればと思う。

萩原

稔(はぎはら みのる) 同志社大学法学部嘱託講師 第8章担当  
主要業績

『民族革命』から『五族共和』へ——北一輝の中国革命観についての一考察』『同志社法学』(第三二二号、二〇〇七年)

『北一輝 自筆修正版 国体論及び純正社会主義』(ミネルヴァ書房、二〇〇七年、共編)

『北一輝の秩序意識——『国体論及び純正社会主義』を手がかりに』『同志社大学ヒューマン・セキユリティ研究センター年報』(第五号、二〇〇八年)

読者へのメッセージ

現代の日本とアジア諸国の複雑な関係を読み解くひとつの手がかりとして、本章の内容に目を通してもらえれば幸いです。